

## 木材と環境に関するアンケート結果の推移

飛島建設

ジェイアール総研エンジニアリング

正会員 ○沼田 淳紀

正会員 木村 礼夫

### 1. はじめに

2020年10月に、菅首相が2050年までにCO<sub>2</sub>排出を実質ゼロにする目標を宣言し、気候変動対策に遅れをとっていた日本も、2050年カーボンニュートラル化へ向けて大きく舵を切った。これと同時に森林や木材への関心も高まりつつあるように感じるが、近年の意識の変化は我々の感覚とは異なる可能性もある。土木分野での木材利用は、積極的な状況ではなかったが、13年前より土木分野での木材利用拡大を目的とした研究会が発足し、シンポジウムなども開催されるようになった。筆者らはこの時期より、木材と環境に関するアンケート調査を実施してきた。ここでは、これまでに得られたアンケート結果について報告する。

### 2. アンケート方法

アンケートは、2008年3月の「土木における木材の利用拡大に関する横断的研究会<sup>1)</sup>」でのシンポジウムで実施して以来、不定期に種々の機会を利用して実施してきた。アンケート内容は、「木材を利用すべきか」、「木材を利用すべきでない」と回答した理由は何か、「木材の炭素はどこから吸収したものか」、「CO<sub>2</sub>濃度はいつ頃から急激に多くなったか」ということを質問している。実施年と対象（カッコ内はアンケート回答者数）は、①2008年、横断研のシンポジウム参加者（75名）、②2010年、中学校生徒（152名）<sup>2)</sup>、③2016年、工学系大学生（51名）、④2016年、建設材料関係委員会委員（45名）、⑤2017年、建設系連合会温暖化対策部会委員（10名）、⑥2017年、地球環境セミナー参加者（42名）、⑦2018年、47都道府県職員（132名）、⑧2018年、研修会参加者（86名）、⑨2019年、農学系大学生（51名）、⑩2019年、中国地盤工学若手フォーラム参加者（47名）、⑪2020年、工学系大学生（106名）であった。

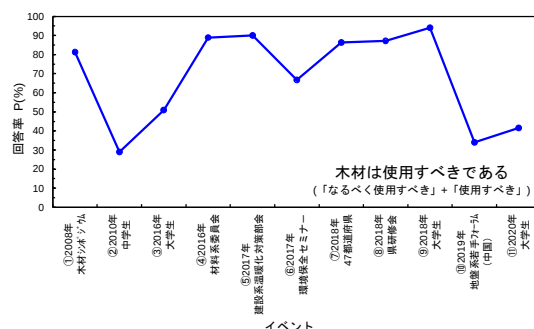
⑦は各都道府県にアンケートを配布し、希望者のみから回答を得たため、関心の高い職員だけが回答している可能性がある。①⑤⑥⑧は、そもそも環境を意識した集会なので、木材や環境に関心の高い、いわゆる関係者が多いと考えられる。⑨は、農学系の大学なので森林や木材に関心の高い学生が多いと考えられる。⑩は海外での実施結果である。国内でバイアスの掛からない、いわゆる公衆としての意識は、②③⑪が近いと考えられる。

### 3. アンケート結果の推移

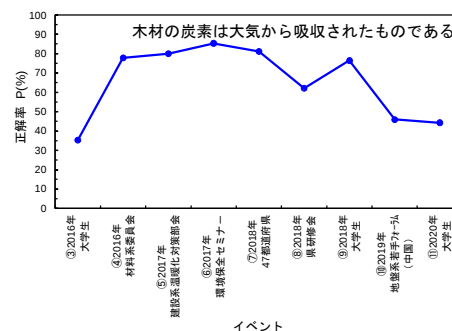
図-1に、アンケート結果の推移を示す。(a)に「木材は使用すべきである」という質問に対するアンケートごとの回答率を示す。80%以上の回答が多いが、②③⑩⑪は50%程度以下であり、必ずしも高くなく、意識が高まりつつあるともいえない。

(b)に「木材の炭素は大気から吸収したものである」の正解率を示す。③⑩⑪は50%以下であり、公衆にはあまり知られていない。近年その正解率も低下傾向にあるようにも見て取れる。

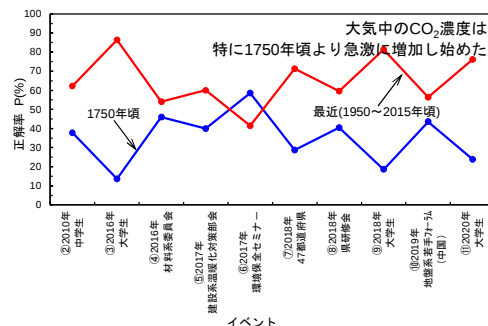
大気中のCO<sub>2</sub>濃度は、産業革命の1750年頃から急激に大きくなり始めたといわれている。⑥を除き、産業革命頃よりも最近という回答の方が多く、近年気候変動は大きな話題になっているが、それが250年も前から始まっていると理解している方は少なく、また、近年そのように考えている方はむしろ低下傾向にあるようにも見える。



(a) 木材は使用すべきである



(b) 木材の炭素は大気から吸収したものである



(c) 大気中のCO<sub>2</sub>濃度は特に1750年頃から急激に増加し始めた

図-1 アンケート結果の推移

キーワード 土木, 木材, アンケート, 森林伐採, 気候変動, 地球温暖化

連絡先 〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬 5472, TEL 04-7198-7572, E-mail atsunori\_numata@tobishima.co.jp

#### 4. アンケート結果の詳細

図-2に、アンケート結果の詳細を示す。(b)に示す「木材を使うべきでない」で、最も多い理由が「環境破壊」である。この知識を深めれば、木材利用に対するネガティブな意識が解消されると考える。(c)に示す通り、木材の炭素は、土中の養分より吸収したと誤解している方が意外に多い。この認識がなければ、木材の利用が温室効果ガス削減と結び付けられないと考えられ、大きな課題である。(d)に示す通り、CO<sub>2</sub>濃度の急激な上昇時期は、最近だと考えている方が多く、中には将来起こることだと考えている方もいる。環境関係者の中にもそのような誤解がある。

#### 5. まとめ

実施したアンケートから得られた結果を以下に示す。

- (1) 関係者の間では木材を利用しようという意識が高いが、公衆ではそれほどではなく、近年その意識が高まったとも言えない。
- (2) 木材を利用すべきでないとする理由は、環境破壊が多く、今後これを解決する必要がある。
- (3) 木材の大半を構成する炭素が土中の養分から吸収している誤解している方が多い。
- (4) 大気中のCO<sub>2</sub>の急激な上昇が始まったのは、最近だとする回答が多い。

謝辞：アンケート実施にあたり、多くの方に御協力いただきました。ここに記して感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 沼田淳紀：土木学会を知ろうー委員会の紹介 木材工学委員会，土木学会誌，Vol.98，No.4，pp.40-43，2013.
- 2) 松尾和昌，小林延房，小島秀二郎，沼田淳紀：地球環境・木材利用・建設会社に関する中学生へのアンケート調査結果，木材利用研究論文報告集9，土木における木材の利用拡大に関する横断的研究会，pp.51-58，2010.

